

TSUKU COMM

〔ツクコム〕

AUTUMN

VOL. 33

TSUKUBA COMMUNICATIONS 2016 ▶▶



筑波大学
University of Tsukuba





目次

- 04 聴／竹中 佳彦 教授
- 08 TSUKUBA OBOG／足立 佳菜子 氏
- 10 附属学校の名物先生登場／
肥沼 則明 教諭（附属中学校）
- 12 躍動する！筑波大生／足立 祥史さん・つくばけやきっず
- 14 Homeland／ギルセット・マイ・マスタさん
- 16 TOPICS
- 21 受賞 Awards and Prizes
- 22 筑波大学校友会・紫峰会基金
- 23 茗溪会
- 24 ツクバでツナがるリレーエッセイ
- 26 Media Appearances
- 27 Event Calendar

○今号の写真撮影協力：中央図書館

・表紙
『御行幸の次第3巻』の下巻より



時代とともに変容する
政治とイデオロギー



竹中 佳彦 教授
(人文社会系)

PROFILE

1964年東京都生まれ。1991年3月筑波大学大学院博士課程社会科学研究科修了後、同年7月本学社会科学系助手、2001年4月北九州市立大学法学部教授、2007年4月筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授などを経て、2011年10月より現職。

主要著作：『日本政治史の中の知識人』（上・下、木鐸社、1995年）、『現代日本人のイデオロギー』（共著、東京大学出版会、1996年）、『現代政治学叢書8 イデオロギー』（共著、東京大学出版会、2012年）、他



政治を科学的に捉える

投票行動から探る 日本人のイデオロギー

イデオロギー。専門家でなければ口にすることさえ滅多にない言葉かもしれません。私たちは選挙のたびに、いろいろな政策や主張を比較し、最も良いと思える政党や候補者を選びます。この「最も良い」という判断の基礎となる価値観がイデオロギーです。日本では政党や政策の対立軸が曖昧になり、イデオロギーを声高に論じることが少なくなりましたが、投票行動や政治意識をじっくり分析すると、現代日本人のイデオロギーが見えてきます。

■ 政党と有権者とイデオロギー

経済政策や安全保障の問題など、政治が解決すべき課題は山積しています。政党は様々な政策を提示し、法案を作り、議論が進んでいきます。こういった政治の動きに対して国民が影響を及ぼすことができる機会のひとつが選挙です。では国民は、何を基準に大切な一票を行使するのでしょうか。

共産主義や社会主義などの極端なイデオロギーは、さすがに今では影響力を失い、自由民主主義が主流となっています。しかし、その中でも経済発展を追求し小さな政府を志向する新自由主義的な考え方（保守）と、社会保障を重視し大きな政府を目指す社会民主主義的な考え方（リベラル）があります。アメリカの経済学者ダウズによると、この2つの考え方を両端に置いた線上に、各政党のイデオロギーが分布しています。

90年代初めまでの、いわゆる「55年体制」と呼ばれていた時期は、各政党のイデオロギーは比較的離れて分布しており、自分のイデオロギーと照らし、支持政党を決めることが容易でした。しかしこの体制が崩れ、政党の分裂・合併が繰り返される中で政党ごとのカラーが薄れると、個々の政策や党首を評価し、それが自分にとって恩恵をもたらすかどうかによって投票先を決める人が増えてきました。この傾向は、日本人のイデオロギーがある一定の価値観に収れんしてきていることを示しているとも言えます。

しかし個人の利害で政策を捉えると、その人の立場や生活環境によって評価が分かれる上、憲法改正や安全保障など国家としての長期的な展望よりも、経済や福祉のような目前の問題ばかりに関心が向き、その時々で内閣支持率が上下したり、一貫性のない選択をすることになったりしてしまいます。

■ 政治学のメソッド

選挙の前後や重要な政策課題が議論される時には、様々な世論調査が行われます。そのデータを計量分析という手法を用いて科学的に分析することで、有権者の投票行動を明らかにしていきます。同じデータを使っても、項目の組み合わせ方などによって異なる解釈が導かれたり、時には想定外の結果が得られたりもしますが、データは正直です。政治学者と言えども、自分の意見を介在させる余地はありません。そこが、評論家やコメンテーターとの決定的な違いです。政治の研究は極めて科学的な営みなのです。

計量分析との出会いは大学院生の頃。今、熊本県知事をしている蒲島郁夫先生の大学院の授業で共同論文を執筆するために選んだのがイデオロギーでした。その共同論文がどんどん膨らみ、単位取得のために書くはずだった



1報の論文は、10年かかって1冊の書籍になりました。その3年ほど前に55年体制が崩壊し、研究は次のフェーズに入りました。その集大成が、2012年に出版した「イデオロギー」という書籍です。日本人はイデオロギーを持たなくなったように見えますが、昨今は、政権の右傾化や、ヘイトスピーチなど排外主義の顕在化も指摘されています。書籍の刊行と前後して、政党と有権者の関係や政策の対立をイデオロギーから論じる研究が増えつつあります。

■ 変わる「保守」と「革新」

近年の分析によると、有権者の考え方に興味深い変化が起っています。特に30代以下の若い層で、「保守」と「革新」の概念が逆転しているのです。これまで社会や政治を支えてきた50代以上の人々にとって、保守と言えば自

民党、革新と言えはかつての社会党や共産党でした。ところが、若い世代の眼には、主張を変えない共産党が保守、新たに勢力を伸ばしてきた日本維新の会などが革新、と映っています。イデオロギーではなく、現状維持か変革かで評価しているわけです。

確かに、学校教育の中で各政党の信条や保守・革新といった概念を学ぶことはほとんどなく、政党や政策の対立をイデオロギーで判断していた時代を知る世代とそうでない世代との間に認識のギャップが生じるのは当然でしょう。しかしそれを間違った知識と断じてしまうのは性急です。若い世代の方が、政治に対する閉塞感をより切実に感じています。だからこそ、現状

を打破してくれそうな考え方が「革新」と受け取られます。人々のイデオロギーが変わるように、保守と革新の基準も時代とともに変化するのかもしれませんが。





■ 政治の話をしてよう

18歳選挙権が導入され、若者が政治に関与する機会が増えています。とは言え、社会とのつながりが少ない彼らには、より良い政策を選ぶ尺度がなく、関心を持ちにくいもの仕方のないこと。けれども見方を変えれば、政治や社会に対する純粋な理想や理念に基づいた投票行動がしや

すいとも言えます。

ある政策が良いと思っても、それが他の政策と相反することもあります。優先順位をつけるにしても、妥協点を見出すにしても、トータルとして築かれる社会の様相を見極めなくてはなりません。そのためには、どの政党がどんな政策を提案しているかを学ぶことが不可欠です。なんとなく避けてしまいがちな政治の話題で

すが、イデオロギーは、普段から考え、議論を積み重ねることで培われていくものです。

自分の主張や要求を政策に反映させるには、ある程度の規模の集団として有権者の存在を示すことも必要です。最近では、デモを行ったり、ネットの書き込みから論争が広がったりするなど、政治参加の手法も多様化しています。こういった動きは、いずれ投票へとつながりますから、政治家も無視はできません。そう考えると、有権者が政治に及ぼす影響力は皆さんが考えるほど小さくはありません。

政治は時代の流れとともにダイナミックに動いています。その中で、政党や有権者の考え方も変わっていくはずですが。従来のイデオロギーの枠組みが変容し、新しい対立軸が形成されていくプロセスを、様々な意識調査と緻密な分析を通じて注意深く見つめています。



河合塾・高校生サイト「みらいぶプラス」より

河合塾と本学が実施した「学問本オナービジット」の取り組みで、開成中学・高校の生徒たちと、著書『イデオロギー』を読んで語り合いました。

//////// TSUKUBA //////////

OBOG

「途上国で『なんとかしよう』と奮闘している人に出会えるのが、この仕事の喜びです」という足立さん。その土地の人々の暮らしを大切に、何かが自分にできるのか」という視点でグローバルな課題解決に取り組んでいます。

— 国際協力のスペシャリストの足立さんですが、大学進学時には「比較文化学類」に入学。進学の理由を教えてください。

世界にはたくさん国があるのに、発展する国としない国があって、その差は何だろうということを考えていたときに、「比較文化学類」という学科を見て、これだと思いました。一般的な「文学部」「工学部」ではなく、「第2学群」とか「比較文化学類」は輝いて見えました。ただ、学内には憧れのバドミントン選手がいて、結局そちらに傾倒してバドミントン部一筋の大学生活でした。しかし、卒論では原点に戻り、フィリピンの輸出志向型の成長戦略について研究しました。

卒論に取り組む過程で勉強をやり残してきたことにハタと気づき、社会学を修めようとミシガン州立大学の大学院に進学しました。周りの学生は、学生とは言っても30代以上の社会人経験者が多く、社会経験を元に、明確な問題意識を持って

いたので、授業に臨む姿勢も真剣そのもの。必死でついていきました。

— 比較文化から社会学、そして環境保全というキャリアは意外な感じがします。

大学院修了後は、国際的な仕事に携わりたいと考え、国際協力機構（以下JICA）に入りました。青年海外協力隊事務局、研究所などに勤務した後、配属されたのが「地球環境部」。JICAの中でもインフラ、エネルギー、教育、保健などの分野別の課題に取り組む「課題部」と呼ばれる部署です。担当することになった生物多様性保全や森林保全などの自然環境保全は、自分の専門分野とはかけ離れているので、大丈夫かしらと戸惑いました。

でも環境の問題って、実は人間の問題なのです。例えば、森林は勝手に減少するのではなくて、人が木を切るから減っていくのです。森林を保全しようと思ったら、木を切らなくてよい生活を保障しなくてはいけない。森林や海洋、湿地などの自

然を保全するためにはそこに暮らす人や社会にアプローチしていかなくてはならない。それには社会学の視点が必要です。「住民に対してどうアプローチするか」「政府に対してどう働きかけるか」「制度をどう作っていくか」を考え、実行することが重要なのです。これならば自分の知識や経験が活かせると思いました。



— 途上国支援の魅力と、難しいと思うことは何でしょう。

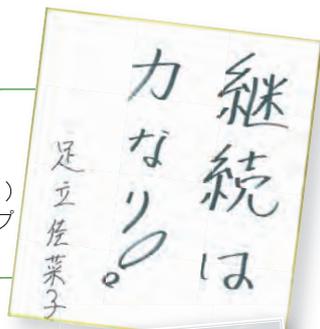
ケニアで社会林業の住民グループ支援プロジェクトを視察に行った時のことです。プロジェクトで支援している地元農民の女性たちが畑の横の空き地で、手

PROFILE

足立 佳菜子 氏

独立行政法人国際協力機構（JICA）
地球環境部森林・自然環境グループ
自然環境第二チーム 課長

1968年 愛知県北名古屋市生まれ
1987年 筑波大学第2学群比較文化学類入学
1991年 同大学卒業、
ミシガン州立大学大学院（社会学）入学
1993年 同大学院（社会学）修了
1994年 国際協力機構（当時国際協力事業団）入社、
青年海外協力隊事務局、研究所等
2008年 中国事務所在外勤務
2012年 帰国、調達部
2015年～ 現部署



足立さんが所属する 地球環境部が現在手がける 「REDDプラス」事業

気候変動は世界的な課題で、その対策に森林保全が重要だというのが国際的な認識です。REDD (Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries) +は、途上国が、木材や燃料の調達、農地開発などのために自国の豊かな熱帯林を伐採することを抑制するため

に、国際社会が経済的インセンティブを提供する取り組みです。国連機関やJICAなどの各国援助機関では、途上国政府がREDD+を導入するための計画、政策・制度の策定や、森林資源のモニタリング、人材育成などを支援しています。REDD+推進のためには政府や援助機関のみならず、民間企業やNGO、研究機関などの協力も不可欠との考えの下、JICAが中心となって、オールジャパンでREDD+に取り組むプラットフォームを2014年に立ち上げました。

足立さんは、中南米・アフリカ・中近東で行われる自然環境保全のプロジェクトの立案・

進捗管理・評価などの総括を担当していて、REDD+事業も支援しています。重要な局面では、政府機関の意思決定者に理解を求めため交渉や報告を行ったり、現地のキーパーソンに会って協力を要請したりします。



森から世界を変える
REDD+

<http://www.reddplus-platform.jp/>

書きの紙を貼って、植林の重要性やプロジェクトで教えた技術の有用性を英語でプレゼンしていました。

彼女らはプロジェクトが始まるまでは、人の前に出て話すことなどなかったのですが、プロジェクトを通じて自ら植林や農業の技術を学び、試してみてもその効果を理解し、当番制で説明するというトレーニングを重ねてきました。外部からただ教えるだけでは、技術の有用性や植林の重要性が伝わらないのですが、自分で実際に試し、比べ、見て観察し、発表にまとめてみると、心底納得して新しい技術を取り入れることができます。現地の人々が問題を理解し、必要性を感じて、主体的に活動に取り組んでいる。自らを大きく変えていける人々の可能性に感動しました。

途上国では環境が大変厳しく、すぐには目に見える成果が出なかったり、活動を持続、普及させていくための資金を確保することが難しかったりします。JICAの支援は通常、3～5年と期間が決まっております。しかし、住民が次のステップに進むことができるように、私たちはJICA以外の国際協力団体に引き継ぐ、他の資金ソースを探る、途上国政府に働きかけるなど住民への支援が継続されるように努力をしています。

— 在外勤務や国際出張が多いお仕事ですが、ライフワークバランスについて、これからグローバルに活躍しようという、特に女性にアドバイスはありますか？

国際的に働く仕事を選ぶ上で、家族との生活をどうするかというのは、誰でも悩むと思います。私の場合、約4年間の中国北京での在外勤務の際には、仕事のあつた夫は日本に残り、私が当時小学4年生の娘を連れて赴任しました。中国国内の

出張の際に、娘を一人にしておくわけにもいかず、赴任が決まったときには、ちょうど定年退職をした父に同行してくれるよう頼みました。他の職員は母親に、別の人は夫に仕事を休職してもらうなど、人それぞれに家庭と仕事が両立できるよう工夫していました。100パーセント何とかするという楽観的なことは言えないのですが、最初からダメな理由を積み重ねて、「だからできない」と諦めてしまうとそこで可能性は終わってしまいます。チャレンジしてみたら、意外にできてしまうこともあるし、やはり難しいとなれば、そこでペースダウンするなど見直すこともできると思います。

— グローバルに働くために、どのようなスキルが必要だと思われますか？

共通言語でコミュニケーションができることは大前提として、私が重要だと思っているのは、相手の価値観や考え方を理解するための柔軟な視点を持つことです。日本で当たり前だと思っていることも、国や地域が異なれば通用しません。こちらが正しいと思うことを押し付けてもうまくいきません。ですから、その国の歴史、宗教、政治などの社会的背景や、彼ら自身の問題意識は何かなどをよく知って、相手にとって理解しやすく、同意できるような解決策を探るといふ心構えが必要です。

さらに、解決策が見つかった目的が定められたら、それを実現するための手段をたくさん持っておくこと。問題はわかっていたけれども何もしゃあげられない、ということになってしまつては役に立てません。

国際協力事業は多くの専門家や関係者とチームで取り組みます。JICAはそのコーディネーター的な役割を果たします。途上国が直面している問題を解決するための道筋を探るには、プロジェクトの目的を常に意識しながら、多様な関係者の知識と経験を総動員し、多面的に検討することが重要です。そうすることで、無理だと思える難題にもアプローチすることができるのです。

— 最後に本学学生にアドバイスをお願いします。

筑波大はいろいろな学科の授業を履修できるのがとてもよいと思います。私も学類を問わず周辺領域の授業やゼミに参加しました。同じチームでも、社会系と国際系の先生が正反対の趣旨の解説をしていたりして、多様な見方が学べたのはとてもよかったと思っています。また、海外に行くと「日本ではどう？」と日本の知見を求められますので、日本についてしっかり学んでおくといふと思います。



名物先生登場!



こいぬまのりあき

肥沼 則明 教諭

筑波大学附属中学校 主幹教諭

1961年、埼玉県生まれ。埼玉大学教育学部卒業後、埼玉県立毛呂山高等学校、埼玉大学教育学部附属中学校勤務を経て、平成7年度より現職。担任した学年を5回卒業させ、現在は研究部長。他に、埼玉大学教育学部「英語科指導法」講師、中学校教科書『NEW HORIZON』（東京書籍）及び雑誌「指導と評価」（図書文化）の編集委員を務めている。

本学には11の附属学校があります。それぞれの分野でわが国の教育をリードしており、全国でも有名な先生たちが大勢います。各学校で活躍する名物先生を紹介いたします。

「Hello, Mr. Koinuma!」「Hello, everyone!」元気な挨拶で英語の授業が始まりました。日付や天気などのやりとりがリズムカルに続きます。これは全校共通のルーティン。4人の英語科教員が同じ教材を使い、授業の進捗も合わせています。担当の先生が変わったりクラス替えがあっても、スムーズに学びを継続できる仕組みです。

挨拶の後、「Reading Show」の結果が発表されました。これはクラス単位で全学年が行う英語の音読テストです。音読とは、単なる読み上げではありません。

ん。題材を自分で選び、登場人物ごとに声色を変えたり、演技も加えたりと、ちょっとした演劇パフォーマンス大会です。発音リズム、発表態度などを生徒同士でも評価し、優秀発表者の投票が行われます。前回よりも上達した部分、つまり、頑張ったことも評価の対象になるので、下位の生徒もモチベーションが上がります。楽しませるための演出はもちろん、他の人の発表を聞くというトレーニングにもなります。

さて、今日の本題は「Who is ~?」の使い方の復習です。見覚えのある人物のシ

みんなで答えた後は、列ごとに一人ずつ発音を確認します。このようにして授業中に全員が発音する機会を作っています。黒板上には次第に「サザエさん」の家系図ができあがっていきます。教科書にも似たような教材はありますが、より親しみのある図柄の方が、生徒の注目を惹くのは明らかです。



発音と同時に、thisとthatとitの使い分けなど、細かな文法にも注意を払います。些細なことのように思えますが、大切なポイントです。生徒たちも、きちんと学びたいという意識が高いので、曖昧な指導は禁物。myとyourのコンセプトを徹底的に学習したり、挨拶の練習に時間をかけたり、普通なら簡単に済ませてしまいそうな部分に、まずフォーカスします。最初の段階で基礎の基礎に丁寧に取り組めば、その後の学習でつまづきにくくなるのです。



1年2組のみんなと



肥沼先生の授業は、とにかくスピード感に溢れていて、集中力が途切れることがありません。このスピード感は、先生と生徒との息が合って生まれるものです。それには、双方の信頼関係が不可欠です。教員を続けながら大学院に通い、修士論文で研究したテーマが「名人の授業を科学する」。上手な授業で評判の先生は全国にいます。その人たちの授業を分析したところ、教えるテクニック以前に、生徒たちとの良い関係を築くことに腐心していることがわかりました。早速、自分も同じようにやってみると、確かに授業の雰囲気が変わりました。できるだけ早く生徒全員の顔と名前を覚え、生徒に何を達成してほしいか、そのためにどんなふうに授業に臨んでほしいか、そういう思いを、他の教員も一緒に、学年全体に伝えます。顔と名前を一致させるのがだんだん難しくなってきたと苦笑しながらも、生徒の心を掴む努力は惜しみません。

授業中は余計な話をするのはほとんどありませんが、帰りの会では日常で遭遇した小さな出来事などを紹介し、生徒と語り合います。それを通して、お互いに、授業中とは別の側面を発見することができます。これも生徒との人間関係を築く大事な時間です。こういった何気ないやり取りや生徒たちの反応を書きためたものを冊子にして、先生たちに配っています。

授業はテンポよく進みますが、盛りだ

くさんな学習内容というよりは、一つのことを少しずつ形を変えながら繰り返し行い、退屈せずに確実に身につけられるような構成です。読む・書くは自宅でもできますから、授業では聞く・話す活動が中心です。生徒との対話や一人一人の発音に十分な時間を取るために、空白の時間を作らないよう、指導案を事前にしっかり頭に叩き込みます。そしてどんな時でも、プロの証としてキリリとネクタイを締め、生徒の前に立ちます。

肥沼先生は校内でもうひとつの重大な役割を担っています。それは学校行事のビデオ撮影です。趣味の映画鑑賞が高じて、自分でも撮影するようになり、今では運動会や文化祭などの映像記録をすべて任されています。生徒のことをよく知っているからこそ撮れる一瞬が満載です。膨大な撮影データを編集し、テロップを入れて、ドキュメント映画さながらに仕上げます。それらは学年ごとに数枚のディスクにまとめ、制作秘話などを記したプロダクションノートとともにパッケージにして卒業の際に生徒に配ります。生徒にとっては最高の記念でしょう。撮影技術の研究にも余念がありません。

中学校の先生になろうと決めたのは、中学3年生の頃。熱心に生徒と向き合う先生と出会ったことと、生徒会長として人前で話すことに快感を覚えたのが、そのきっかけ

でした。けれども英語は大の苦手科目。ところが大学に入ってから英語を学んでみると、それまでわからなかったことが理解できるようになりました。その体験が、肥沼先生を英語教師の道へと導いたのでした。学生時代に1年間、アメリカに国費留学し、英語を話すことに対する抵抗感も消えました。英語はあらゆる分野に関連する科目。その先にもっともっと大きな世界が広がっていることも、英語を教える魅力です。なりたかった中学校の先生になり、生徒の成長を見守る日々は、何にも代え難い幸せです。



小山 浩 副校長と

肥沼先生が、本校に赴任した歓迎会でのこと。自己紹介をするときに、ある”人”を連れてきました。それは、かれの無二の”親友”、けんちゃん。彼を膝の上に乗せ、話し始めました。なんと”彼”は腹話術の相方でした。これを使いながら、生徒が興味を持って授業に臨めるようにするとのこと。一同吃驚です。しかし、肥沼先生の授業に対する姿勢の一端を見た思いがします。それからの彼の英語科教育における活躍は目覚ましいものでした。本校の英語科全ての教員がそうであるように、日本一の英語教員、といっても過言ではない教師になってくれています。全国から英語教育研修会の講師依頼は引きも切らず、それでも決して本業の授業を疎かにすることなく、全力投球です。

このように様々な活躍をしながら、綺羅星の如くの附属中学校教師集団にあって、もうベテランの域に達しています。本校の中核となる存在として、益々その輝きを増しています。ご自身が、本校を教員として卒業するまで、輝き続けられることを、副校長としても期待しています。



第3回世界ろう者陸上競技選手権
男子4×100mリレー
銅メダル獲得！

あだち よしふみ
足立 祥史さん

もう一つのオリンピック、 デフリンピック目指して

躍動する！

6月25日～7月3日に、ブルガリア共和国で開催された第3回世界ろう者陸上競技選手権大会で、本学人間学群障害科学類2年の足立祥史さんが、男子4×100mリレーの日本代表として第3走者を務め、42秒02の日本ろう者新記録で銅メダルを獲得しました。

幼い頃から走ることが自己表現の一つだった足立さんは、本学に入学し、高校時代から憧れていた陸上競技部に迷わず入部しました。アダプテッドスポーツの舞台だけでなく、筑波大学陸上競技部の代表選手として学生選手権などの大会に出場することを目指して、日々練習に励んでいます。「今は毎日、部員としての誇りと使命感でいっぱいです」と語る表情からは充実した日常が伝わってきます。

世界大会では、補聴器など一切の装具を外すため、スタートの音も、応援の音も、風の音も走者には届きません。スタート合図のライトの点灯だけが頼りです。「目に見える情報しかないリレーは、いつも以上に緊張しました。代表リレーメンバー

は『世界でナンバーワンになる』という目標の元で気持ちが一つになれたので、短い期間でできる限りのことはやれたと思います」と初めて臨んだ国際大会を振り返ります。

今回の経験から得た、世界の選手と渡り合えたという達成感と、練習を重ねればもっと戦えるという確信を糧に、足立さんの挑戦は続きます。来年、トルコで開催される聴覚障害者の国際スポーツ競技会「デフリンピック」のリレー走者として、さらなる上位を目指しています。

両耳感音性難聴という障害をもつ足立さんは、幼い頃に出会った特別支援学校の先生に憧れて人間学群に進学しました。聴覚障害をもちながら明るく熱心に指導してくれたその先生のように、自

分も障害のある子どもやその家族の気持ちに寄り添い、勇気を与えられる存在になりたいと考えています。障害がある人もない人も理解できる「授業のユニバーサルデザイン化」を実現したい、という思いは、もう一つの夢にもつながっています。それは、障害者スポーツを障害がない人も楽しめるのだと知ってもらうこと。そこには、自らのスポーツの喜びをより多くの人に伝えたいという、表現者としてのランナーの姿がありました。



専門種目は短距離(100m)、2016ジャパンパラ陸上競技大会では男子T60 100mで2位。ベストタイムは100mが11秒02、目標タイムは10秒70。

競技成績・各種発表・コンテスト結果

- 陸上競技部
 - 第29回南部忠平記念陸上競技会 [男子三段跳] 優勝 山下航平 (体育4)
 - U20世界陸上競技選手権大会 [男子4×100mR] 2位 2走/山下潤 (体育1) (U20アジア記録タイ)
 - 秩父宮賜杯 第56回実業団・学生対抗陸上競技大会 [女子ハンマー投] 優勝 勝山眸美 (体育4)
 - 天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会 [男子砲丸投] 2位 森下大地 (体育4) [男子4×100mR] 2位 金森和貴 (体育4)、山下潤 (体育1)、東田旺洋 (体育3)、魚里勇介 (体育4) [女子棒高跳び] 2位 若園茜 (体育2) [女子ハンマー投] 優勝 勝山眸美 (体育4) [女子円盤投] 優勝 辻川美乃利 (体育3)

- 柔道部
 - 第58回全国国立大学柔道優勝大会 優勝 [最優秀選手賞] 大橋賢人 (体育3)
 - 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 [60kg級] 3位 宮川太暉 (体育3) [66kg級] 2位 田川兼三 (体育2) [81kg級] 優勝 佐々木健志 (体育2) [100kg超級] 3位 上野翔平 (体育1)
 - 水泳部
 - 第92回日本学生選手権水泳競技大会(競泳) [男子400m個人メドレー-B決勝] 2位 瀬戸吟次 (体育4) [男子400mフリースタイル-B決勝] 2位 三浦遠 (体育3)、石井亨 (体育3)、山田泰也 (体育2)、浦塚一明 (体育4) [女子100m自由形B決勝] 優勝 岸本梨沙 (体育1)

- バドミントン部
 - 第4回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会 優勝 安田美空 (体育1)
 - 2016年度関東大学バドミントン秋季リーグ [男子2部] 優勝 (入れ替え戦進出) [男子2部最優秀選手] 馬場湧生 (体育3) [女子1部] 優勝 [女子1部最優秀選手] 安田美空 (体育1)
 - 第59回東日本バドミントン選手権大会 女子団体優勝
 - 体操競技部
 - 第70回全日本学生体操競技選手権大会 [男子団体] 総合3位 [女子団体] 総合2位

JAPAN WATER POLO LEAGUE 2016 2位
第92回日本学生選手権水泳競技大会(水球) 準優勝

つくばけやきっず

病棟の子どもたちが わくわくしながら 見上げる夜空 「ゆめ花火」



筑波大生

来たる11月6日の夜、雙峰祭のフィナーレ花火の前に「ゆめ花火」プロジェクトによる創作花火があがります。果物や笑顔などをモチーフとした優しい打ち上げ花火は、附属病院の小児病棟に入院中の子どもたちが描いた原画を元に製作するオリジナル作品。活動は今年で6年目を迎えます。

このプロジェクトを手がけるのは、学生グループ「つくばけやきっず」と「筑波大学花火研究会」です。医学群の1～3年生を中心に30名ほどが活動するつくばけやきっ

ずは、資金調達と子どもたちとのデザイン作成、打ち上げ当日の子どもたちとの遊びや観覧への誘導を行います。花火業者と花火を製作し、打ち上げの手配を担当するのは筑波大学花火研究会です。プロジェクトでは、学外公募や本学社会貢献プロジェクトの助成のほか、筑波フューチャーファンディング^(※)でつくばけやきっずへの協力を呼びかけています。

入院中の子どもたちには、感染症のリスクや気温変化などに対する繊細な配慮が必要です。屋外での観覧はもちろん、数百メートルの屋外移動もできません。昨年はバスで病棟から移動して、観覧用に準備した教室で窓ガラス越しに夜空を見つめました。

「当日は雨が降っていて、ぎりぎりまで打ち上げられるかどうかわかりませんでした。でもみんなの描いた絵が夜空で花火になると子どもや家族から歓声があがりました。窓いっぱいの夜空に広がる花火は迫力満点でした」と語るのは、つくばけやきっず代表の小林智美さん。小林さんは先輩から受け継いだ言葉を胸に活動を続けます。「病院には、それぞれのプロフェッショナルがいます。病気は医者、看護は看護師、病児保育のプロもいます。私たちは病院に関わる者としてはアマチュアですが、学生の私たちだからこそできること、それは外の世界のワクワクやドキドキを病棟の子どもたち

に届けることだと思います。」

同じくメンバーの與那覇亜美さんは、活動に参加する前は、病気を抱えた幼い子と接するのが怖かったそうです。ところが、昨年の「ゆめ花火」の運営に携わって、その苦手意識は消えました。「病気を抱えていても子どもたちは楽しいと笑顔になります。ご家族は力強く明るいです。一緒に花火を見て、教室が温かい雰囲気に包まれたとき、私が思い込みだけで壁を作っていたんだと気づきました」と語ってくれました。

「ゆめ花火」では、普段、まったく活動形態の異なる複数の団体がコラボレーションします。病棟の子どもたちの夢と一緒に、筑波大学生の夢ものせて、夜空に花ひらけ！



医学群医学類5年 小林 智美さん
医学群看護学類4年 與那覇 亜美さん

(※)筑波フューチャーファンディング

起業・社会活動を行う筑波大学の学生・教員・卒業生等に対しクラウドファンディングの仕組みを通じて活動資金を募る。また、ファンドレイジングを通じて、学生の事業構想力・発表力・論理力等を育成し、教育効果を図ることも併せて目的としている。主催は本学OBらが中心となって設立した一般社団法人筑波フューチャーファンディング。
<https://www.tff.or.jp/>

■体操部 (ラート)
第12回世界ラート競技選手権大会 2位
[男子個人総合] 2位 田村元延 (院3年)
[男子跳躍部門] 優勝 田村元延 (院3年)

第12回全日本学生ラート選手権大会 2位
[男子直転] 優勝 森本修多 (体育4)
[女子個人総合] 2位 瓜兼汐里 (体育2)
[女子直転] 2位 渡辺理沙 (体育3)
[女子斜転] 2位 瓜兼汐里 (体育2)
[女子跳躍] 優勝 瓜兼汐里 (体育2)

■ダンス部
ART.M in 富山
[松本千代栄賞受賞] 天野絵美 (体育3) 作品「fruity」
[審査員賞受賞] 中谷真弓 (体育2) 作品「mirage」

■サイクリング部
全日本学生RCS第5戦・WANGANサイクルフェスティバル
海岸クリテリウム
女子優勝 梶原悠未 (体育1)

■硬式野球部
第65回関東甲信越大学体育大会 準優勝

■女子バレーボール部
第35回東日本バレーボール大学選手権大会 準優勝

■硬式テニス部
平成28年度全日本学生テニス選手権大会
[女子ダブルス] 準優勝 米原実令 (体育3)・森崎可南子 (体育2)ペア

■男子アイスホッケー部
平成28年度関東国立大学アイスホッケー大会 優勝

■弓道部
第65回関東甲信越体育大会
[男子団体] 準優勝 [女子団体] 準優勝

■オリエンテーリング部
2016年度 日本学生オリエンテーリング選手権大会
関東地区代表選手選考会 (ロングセリ)
[新人クラス] 1位 MF 内山悠真 (芸術1)、2位 WF 増澤すず (比文1)

第5回アジアオリエンテーリング選手権大会
[リレー-競技] 3位 山岸夏希 (体育2) ※日本代表

■なわとび
World Rope Skipping Championships 2016
[団体戦シングルロープチームフリースタイル部門] 優勝 藤田惇平 (理工1)
※日本代表チーム所属



フィヨルドにかかる虹



山小屋は休日のリビングルーム



ヨットクラブのみんなでホットドッグパーティ

国民の義務？ 大人は3週間のお休み

夏は国民みんなが一番楽しみにしている季節です。ノルウェーでは「Eilvestreie」という休暇制度があり、法律で労働者は6月1日から9月30日の間に連続して3週間の休みを取る権利が保障されています。子どもたちの夏休みにあわせて、普段は働いている両親も休暇を申請し、家族一緒にバカンスを過ごします。もちろん、子どもたちには、夏の宿題なんてありません！

森の別荘で過ごす 何もしない特別な時間

10月にも1週間の秋休みがあります。8月から新学期が始まって、緊張続きの子どもたちにとっては待ち遠しいお休みです。森が豊かに彩られる秋休みは山の別荘で過ごします。日本で別荘というと贅沢な響きがありますが、ノルウェー人はみんな山小屋が大好きで、自宅とは別に森に小さな山小屋を持っていく人がたくさんいます。木造の簡素な造りで、シャワーやトイレはないところもあります。

家庭料理はお刺身とパン

母が日本人なので、ノルウェーにいたころから和食に親しんでいました。日本に来

て、やっぱり母の日本食は本物だったなと思います。食文化の違いで困ることはありませんが、故郷の味が恋しいのも確かです。特に、ノルウェーサーモンとパン。

新鮮なサーモンが手に入ると、母がさばってお刺身にしてくれていましたが、近年は日本食ブームが進んで、ノルウェーでもスーパーで刺身が買えるようになりました。身がしっかりとっていて味が濃厚なノルウェーサーモンの刺身は、私にとって日本とノルウェーのいいところを凝縮したソウルフードです。

それからパン。日本人が海外でお米が恋しくなるように、いつも食べていたパンの味は忘れられません。帰省するときにはスーツケースに詰め込んで、入るだけ持ち帰ってきます。冷凍して少しずつ大事に、食べています。

いいヘラジカが入ったよ！

秋には、知り合いのついででトナカイやヘラジカの肉をもらってきます。うまい具合に毎年、近所の誰かが「いいヘラジカ肉があるよ」と調達してくれるのです。それを母がシチューやグリルにしてくれました。

あまりホームシックにはなりません、独立記念日とクリスマスはお祭り色が豊かなので、「今だけノルウェーに居られたら」と思いながら大学のテストやレポートに追われています。

でも大丈夫。大学時代は短いから、日本の生活を目いっぱい満喫します。



14 秋休み、犬と野山散策



サーモンといえばこの感じですよ



バルコニーでランチ！



海の上、風が最高に心地よい

Homeland

本学には、100を超える国から、約3千人の留学生が訪れています。
このコーナーでは、本学の留学生から、出身国の自慢の場所や風景、
食べ物など、多岐にわたって紹介していただきます。



ノルウェー王国



ギルセット・マイ・マスダ

Gylseth Mai Masuda さん



所属：社会・国際学群 国際総合学類 3年
趣味：散歩、読書、旅行

母の祖国日本に暮らすことが夢でした

ノルウェー人の父と日本人の母の元に生まれ、ノルウェーのオスロ近郊にあるアスケルという街で暮らしていました。「いつか母の祖国、日本で生活をしたかった」と思っていたので、大学生になるのを機にG30プログラムで本学に進学し、現在は国際総合学類3年で経営人類学のゼミに入っています。つくばでの生活はとても充実しています。夏とクリスマスシーズンは、故郷と家族を想うことが多くなります。

ヨットとフィヨルド
はかない夏の贅沢

北欧に位置するノルウェーでは、夏は6月の半ばから7月の終わりごろまでのわずか1か月余り。日本のように気温が30℃を超える日は1、2日あるかないかで、25℃程度の過ごしやすい気候です。まぶたを閉じれば自宅のバルコニーから眼前に広がるフィヨルドの風景が浮かんできます。

私は幼いころに地域のヨットクラブでセーリングを教えるもらいました。クラブが所有している古いセールボートに乗って、ヨットを操る父と一緒にフィヨルドをセーリングします。夏の日差しにキラキラ輝く水面とフィヨルドの緑はともきれいです。アスケルはノルウェーフィヨルドの端に位置し、ここからぐるっと北欧のフィヨルドを周遊することができます。

そうそう、セーリングの時には釣竿も忘れません。支流では大物のサバを釣り上げたこともあります。



大好きな父



友人とヨットハーバーにて



街のヨットハーバーからの眺め

TOPICS

TGSW 2016

今年も、本学ならびに筑波研究学園都市における最新研究のショーケースたることを目標に掲げる「Tsukuba Global Science Week (TGSW)」が、9月17日から19日までの3日間、世界33か国、113機関からの発表者と、実数で1,500人を超す来場者を迎え、つくば国際会議場にて開催されました。

社会貢献や外部資金獲得、国際的レピュテーションの強化への多面的な要請の高まりから、独立性の高い大学にとっても、産業界および政府系の研究機関といかに連携し、シナジーを高めていくかが喫緊の課題となっています。そこでTGSW2016では、「産官学連携とイノベーション」を全体テーマとして設定し、国際産学連携本部主催による、次世代社会・産業とオープンイノベーションを扱うメインセッションを実施しました。また、本学だけ



サンパウロ大学、マレーシア日本国際工科院との調印式

でなく、物質・材料研究機構(NIMS)や、本学の重要な協定校のひとつであるボルドー大学主催によるセッションを含め、過去最大の規模となる40を越えるセッションが実施され、いずれも盛況のうちに幕を閉じました。

初日となる9月17日のオープニングセッションでは、Alzheimer's Research UKから50億円近い財政支援を受け、産学連携によるアルツハイマー病および認知症治療の研究を指揮するJohn Davis博士(オックスフォード大学)の特別講演が200人を越える聴衆の前で行われました。続いて行われた国際産学連携本部主催によるメインセッションでは、まず原山優子氏(内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員)およびD. Winwood

筑波大学海外文化ウィーク 第二弾 台湾文化ウィーク開催



9月16日から20日の5日間、台湾文化ウィークが筑波大学サテライトオフィス他で開催されました。

台湾文化ウィークは、筑波大学が国際化の推進のために開催し

ている、海外文化ウィークの第二弾となります。今回は、本学の台湾オフィスが昨年より本格稼働を開始したことに鑑み、市民の皆様にも台湾への理解を深め、その文化を楽しんでもいただけるイベントとして企画しました。オープニングでも振る舞われた国立台湾大学ブランドの凍頂烏龍茶の試飲、台湾名物のパイナップルケーキの試食には連日たくさんの方が訪れ、お茶の香りを楽しみながら、台湾の写真や、台湾人留学生による書や絵画、台湾の大学、企業の展示など、台湾の文化に親しみました。

展示以外にも、2つの市民講座「知られざる台湾」、「台湾語講座」及び、台湾に造詣の深い直木賞作家・乃南アサ氏によるトークショー、台湾の新興閣掌中劇団による人形劇、関東地域台湾人医師団体による台湾の歌の合唱と、多岐にわたるイベントが行われ、その全てが満席となる盛況ぶりでした。





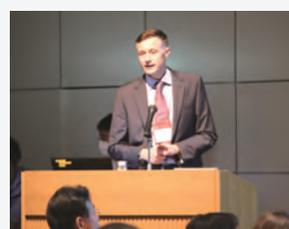
氏(米国技術移転マネジメント協会会長)のお二人から Society 5.0を含む日米における産官学連携とイノベーションへの取組について基調講演があり、その後、休憩を挟んで午後からは「国際産学連携とイノベーション」と「次世代産業・社会を切り拓くオープンイノベーション」をテーマとしたふたつのセッションが実施されました。

第1セッションでは、本学を代表するベンチャー企業であるサイバーダイナミクス社の山海嘉之教授、フィリップスの基礎研究を担うアイントホーヘン工科大学のA.Brombacher教授、世界最大の創薬会社であるファイザーの瀬尾亨博士ら、そうそうたるメンバーをパネリストに迎え、産学連携をベースにしたイノベーションについてエキサイティングな議論が展開されました。続く第2セッションでは、国家(エストニア)、都市(ストラスブール)、産業(GE:インダス

トリアルインターネット)、大学(筑波大学)といった多岐にわたる先進的な事例を中心に次世代のオープンイノベーションについて議論が行われ、それぞれの取組の進歩性が大きな反響を呼びました。

また、昨年に引き続き、つくばの地に結集した研究者コミュニティによる地球規模課題の克服への決意、ならびに多様性や平等の尊重、次世代の研究者育成に対する誓いを「TSUKUBA宣言2016」として公表しました。

次回TGSW2017は2017年9月25日～27日の3日間、「Science for Social Innovations」をメインテーマとして開催予定です。



リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック出場記念展示会を開催(7/22～8/20)

本学在学生やOB・OG等が選手として出場するのを記念して、選手のバネルやサイン等の展示を行いました。これからスポーツ選手を志すかもしれない子ども達や、出場選手と同年代の学生達、仕事終わりのサラリーマンなど、様々な世代の多くの方が関心を寄せてご覧になっていました。約1ヶ月間の展示期間中、迫力ある選手達の闘志あふれる姿が写るパネルでサテライトオフィスが華やぎました。



筑波大学落語研究会 夏の落語会(8/11)

落語研究会による落語の公演会がありました。舞台も工夫しサテライトオフィス内でも雰囲気のある寄席ができました。衣装に身を包んだ落語研究会の学生が小断でお客さんの笑いを誘っていました。



筑波大学芸術専門学群生によるライブペインティングパフォーマンス(8/22～8/24)

筑波大学の学園祭「雙峰祭」の一環として行われる芸術祭をPRすることを目的として、ライブペインティングと学群紹介の展示が行われました。絵が徐々に完成されていく様子を、道行く人々が足を止めて興味深そうにご覧になっていました。ライブペインティングで描かれた絵はしばらくの間サテライトオフィスに展示され、空間に彩りを添えてくれました。



筑波大学サテライトオフィスは学生・教職員の皆さまのご利用をお待ちしております。イベントを行いたい方は、一度サテライトオフィスまでお越しください。また、Twitterでもイベント情報などをお伝えしています。@tsukuba_sat

TOPICS

撮影快調！

ドラマ甲子園大賞受賞作品 「変身」、まもなくオンエア 附属駒場高校3年 佐藤孝樹さんが初監督に挑戦

フジテレビが実施する高校生限定の脚本募集企画「ドラマ甲子園」で、筑波大学附属駒場高等学校3年生の佐藤孝樹さんの作品「変身」が見事、大賞を受賞しました。初めて書いた脚本での受賞。さらに、佐藤さん自身が監督・演出も手がけ、附属駒場高校（筑駒）をロケ地に、テレビドラマとして撮影が行われました。

受賞作「変身」は、それまでの冴えない自分から抜け出そうと心機一転、ルックスを変えて高校デビューした男子が、恋愛や友情を経験しながら、本当に大切なのは見た目ではないことに気づいていく成長の物語です。男子校の筑駒に通う佐藤さん。女の子と接する機会は滅多にありません。妄想と願望をストーリーに込めたそうです。

撮影には、夏休み中の校舎が使われました。女子はもちろん、制服姿も普段の筑駒では見られない光景です。偶然通りがかった筑駒生たちも興味津々の様子。そんな中、佐藤さんは、初めてとは思えない堂々とした監督ぶりで、入念にモニターをのぞき込んで演技をチェックします。シーンによっては、何度もやり直しをするこだわりようです。自分の脚本が、大勢のプロのドラマ製作スタッフと同世代の俳優たちによって、具体的に形作られていく緻密なプロセスとその高揚感を存分に楽しんでいるようでした。



写真提供：フジテレビ

高校3年生の夏といえば、普通は受験勉強の真っ最中ですが、「筑駒では、どの生徒も名物行事の文化祭に全力投球します。本格的な受験勉強はその後、高3の冬から始まるんです」とは副校長の濱本先生の弁。佐藤さんも例外ではありません。将来は、監督や演出など、何らかの形でメディア制作に関わる仕事に就きたいと考えていますが、当面の進路としては法学部が志望です。この撮影が終わったら、次の作品ではなく受験に向けて気持ちをリセットすると、きっぱりと言い切りました。

今回撮影したドラマ「変身」は、10月19日（水）午後10時30分～11時30分、CS放送フジテレビTWOドラマ・アニメにて放映予定です。監督のイチオシは、ヒロインの妄想シーンとか。自信がない、としきりに言いながらも、面白いはずだからぜひ見て欲しいと語る表情には大いに期待できそうです。



黒姫高原共同生活

7月27日～29日、本学附属学校群の児童・生徒が黒姫高原（長野県）で2泊3日の共同生活を行いました。小学生から高校生まで、様々な障害のある児童・生徒を含む子どもたちが、共同生活とアダプテッドスポーツなどを通して多彩な交流活動を展開し、心のバリアフリーに対する意識の向上を図るとともに、個性の尊重と伸張を目指すことが目的です。2回目の実施となる今年度は、附属学校11校中8校から73名の児童・生徒が参加しました。



3日間という短い期間の中で、さまざまな活動が行われました。初日はあいにくの天気となってしまいましたが、現地に着くと、班ごとに分かれてカレー、クリームシチュー、ポトフから2つを選んで、夕食を作りました。

2日目は盛りだくさん！大塚特別支援学校と附属小学校の児



童・生徒がリードする「ラジオ体操第一“イングリッシュバージョン”」からスタート。それから、「森のアドベンチャー」と称した、黒姫高原の自然を堪能する散策に出かけました。途中では流れる小川にも入って、みんな大はしゃぎ。続いて、「アイスクリーム作り」と「思い出の作品作り」の2つのものづくり企画です。黒姫高原の牧場でとれた搾りたて牛乳で、卵を使わないアイスクリーム作りに挑戦。また、黒姫山麓の森林の中で育った木の枝や実を使って、フォトフレームやドアプレート作りにも取り組み、それぞれ思い思いの作品が仕上がり、満足気でした。共同生活最後の夜はキャンドルファイヤーと花火を中心に、みんなでゲームや合唱に興じたり、各学校の出し物を披露しました。

最終日は「野尻湖ナウマンゾウ博物館」へ。学芸員の丁寧な説明に、児童・生徒たちは興味津々です。化石の骨や歯に直接触りながら、館内を見学しました。そして、楽しいバスレクとともに帰路につきました。

たくさんの保護者と職員の笑顔に迎えられ、全員無事に戻ってきました。互いにかけてがえのない存在であることを感じ取って、3日間の共同生活は幕を閉じました。



TOPICS

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで、本学および附属校など在校生・卒業生が活躍。あわせて銀メダル3個、銅メダル5個！！



岡村選手 写真：日刊スポーツ/アフロ



木村選手とコーチの寺西先生(附属視覚特別支援学校) 写真：日刊スポーツ/アフロ



山田選手 写真：日刊スポーツ/アフロ



廣瀬選手 写真：伊藤真吾/アフロ

オリンピック出場者

氏名	所属 ※卒業生は卒業年、()内は現所属	最終順位・記録
山下 航平	体育専門学群 4年	【陸上男子三段跳】 35位 15m71
金子 雅紀	人間総合体育学博士前期課程 2年 (株式会社ユラス)	【競泳男子平泳ぎ 200m】 11位 1:56.78
● 永瀬 貴規	H28 体育専門学群卒業 (旭化成株式会社)	【柔道男子 81kg 級】 銅メダル
シャーフセイン シャー	H28 体育専門学群卒業 (パキスタン代表)	【柔道男子 100kg 級】 予選敗退
福岡 堅樹	H28 情報学群情報科学類卒業 (パナソニック株式会社)	【男子ラグビー】 4位
彦坂 匡克	H25 体育専門学群卒業 (トヨタ自動車株式会社)	
與那嶺 恵理	H27 体育専門学群卒業 (Hagens Bertram-Supermint)	【女子ロードレース】 17位 3:56.23 【ロードタイムトライアル】 15位 46:43.09
衛藤 昂	H27 人間総合体育学博士前期課程修了 (味の素ネオラフーズ株式会社)	【陸上男子走高跳】 35位 2m17
志水 祐介	H24 体育専門学群卒業 (ブルボンウォーターポロクラブ柏崎)	
保田 賢也	H24 体育専門学群卒業 (ブルボンウォーターポロクラブ柏崎)	【水球男子】 12位 (予選 A 組 0勝5敗)
棚村 克行	H26 体育専門学群卒業 (ブルボンウォーターポロクラブ柏崎)	

パラリンピック出場者

氏名	所属 ※卒業生は卒業年、()内は現所属	最終順位・記録
瀬立 モニカ	体育専門学群 1年	【カヌー女子スプリント・200m カヤックシングル】 運動機能障害 KL1 8位 1:09:193
鈴木 徹	人間総合体育学博士前期 2年 (SMBC 日興証券株式会社)	【陸上男子】 走り高跳び (切断など T44) 4位 1m95
● 岡村 正広	H21 理学科教員養成施設卒業 (千葉県立千葉盲学校)	【陸上男子】 マラソン (視覚障害) 銅メダル 2:33:59
堀越 信司	H19 附属視覚特別支援学校高等部卒業 (西日本電信電話株式会社)	【陸上男子】 マラソン (視覚障害) 4位 2:36:50
高田 千明	H12 附属視覚特別支援学校中部卒業 (ほけんの窓口グループ株式会社)	【陸上女子】 走り高跳び (視覚障害 T11) 8位 4m45
● 山田 拓朗	H26 体育専門学群卒業 (株式会社 NTTドコモ)	【競泳男子】 (運動機能障害) 50m自由形 (S9) 銅メダル 26.00 100m自由形 (S9) 8位 57.69 100mバタフライ (S9) 12位 1:06.07 400m自由形 (S9) 12位 4:37:28
●●● 木村 敬一	H21 附属視覚特別支援学校高等部卒業 (東京ガス株式会社)	【競泳男子】 (視覚障害) 50m自由形 (S11) 銀メダル 26.52 100m自由形 (S11) 銅メダル 59.63 100m平泳ぎ (SB11) 銅メダル 1:12.88 100mバタフライ (S11) 12位 1:02.43 200m個人メドレー (SM11) 4位 2:28:76
小野 智華子	H28 附属視覚特別支援学校専攻科卒業 (あいおいニッセイ同和損害保険株式会社)	【競泳女子】 (視覚障害) 50m自由形 (S11) 17位 36.71 100m自由形 (S11) 11位 59.63 100m背泳ぎ (S11) 8位 1:25.40 400m自由形 (S11) 12位 1:12.88
● 廣瀬 誠	H13 理学科教員養成施設卒業 (愛知県立名古屋盲学校)	【柔道男子】 60kg 級 (視覚障害) 銀メダル
若杉 遙	H26 附属視覚特別支援学校高等部卒業 (立教大学 3年)	【ゴールボール女子】 (視覚障害) ベスト8
天摩 由貴	H21 附属視覚特別支援学校高等部卒業 (株式会社マイテック)	

※敬称略、順不同

受賞 Awards and Prizes

教職員

受賞名	受賞者	所属
平成27年度電子情報通信学会論文賞 2015年度日本データベース学会論文賞	塩川浩昭助教	計算科学研究センター
日本認知症ケア学会平成28年度石崎賞	河野禎之助教	ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ターダイバーシティ部門
第18回守田科学研究奨励賞	柴小菊助教	生命環境系、下田臨海実験センター
Diploma and I.S. Babchin's named medal (for interesting oral paper in the frames of the 5th Russian-Japanese Neurosurgical Symposium)	ZABORONOK ALEXANDER病院講師	附属病院国際医療センター
茨城県常総市より感謝状 (平成27年9月に発生した関東・東北豪雨災害により被災した方々及び被災地のために本学教職員が行った様々な支援について)	筑波大学	
ICCSA 2016 NVIDIA Best Paper Award	高橋大介教授	計算科学研究センター
ドイツ・イノベーション・アワード ゴットフリード・ワグネル賞 2016	所裕子准教授	数理物質系
East Asia Planning History Prize of the International Planning History Society	松原康介准教授	システム情報系
Leadership & Visionary Award	西川博昭教授	学術情報担当副学長、附属図書館長、 システム情報系
2016年度日本植物細胞分子生物学会奨励賞	有泉亨准教授	生命環境系、遺伝子実験センター

学生・大学院生

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導教員
情報知識学会 学生奨励賞	青山優里彩 (図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻博士前期1年)	宇陀則彦准教授(図書館情報メディア系) 松村敦助教(図書館情報メディア系)
情報メディア学会第15回研究大会最優秀ポスター賞	松山麻珠 (図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻博士前期2年)	池内淳准教授(図書館情報メディア系、知的コミュニケーション基盤センター)
財団法人日本英語検定協会 第29回(2016年)英検研究助成研究部門入選 2016年度全国英語教育学会・学会賞(学術奨励賞)	多田豪 (人文社会科学部研究科現代語・現代文化専攻博士前期2年)	卯城祐司教授(人文社会系)
SIGGRAPH 2016 ACM Student Research Competition	橋爪智 (情報学群情報メディア創成学類4年)	落合陽一助教(図書館情報メディア系)
2016年度統計関連学会連合大会 優秀報告賞	中山優吾 (数理物質科学研究科数学専攻博士前期2年)	青嶋誠教授(数理物質系)
第8回全国学生能楽コンクール中日新聞社賞	筑波能・狂言研究会	大倉浩教授(人文社会系)
第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 文部科学大臣賞(最高位)	ダンス部	寺山由美准教授(体育系)

※所属・職名・学年は受賞時

▼情報知識学会 学生奨励賞



青山 優里彩さん

▼第8回全国学生能楽コンクール 中日新聞社賞



筑波能・狂言研究会

▼第29回全日本高校・大学ダンス フェスティバル(神戸) 文部科学大臣賞



ダンス部

▶ 2016年度 全国英語教育 学会・学会賞 (学術奨励賞)



多田 豪さん

筑波大学校友会

TAA(筑波大学校友会)カード 入会キャンペーン実施中

平成28年12月31日までに校友会カードが発行された方全員に、
VJAギフトカード1,000円分を贈呈しています。
この機会にぜひお申し込みください。

- ✓入会費無料(在学生会は年会費も無料)
- ✓電子マネー「iD」申込可能
- ✓海外・国内旅行保険付き
- ✓学内外の提携施設で特典あり※



※本カードを提示するだけで、つくば市の飲食店をはじめ、200店舗を超える商業施設で様々なサービスが受けられます。

必要書類(本人確認資料等)の不備等により、カード発行期限までにご入会いただけない場合は、本キャンペーンの対象となりませんのでご注意ください。

お申し込み方法など、詳しい情報はこちら <https://alumni.tsukuba.ac.jp/information/1001>



本カードを皆さまがご利用になると、カード会社の収益の一部が本学基金「TSUKUBA FUTURESHIP」に寄附され、在学生への経済支援や学園祭等の課外活動支援に充てられる仕組みとなっています。

問い合わせ先

《全般》
国立大学法人筑波大学 連携・渉外室
☎029-853-2030

《クレジットカードについて》
三井住友カード株式会社
☎0120-816437

紫峰会基金 筑波大学学生支援事業

【筑波大学紫峰会基金運営委員会】

6月22日に筑波大学紫峰会基金運営委員会が開催され、平成28年度紫峰会基金の予算案が承認されました。紫峰会から引き継いだ、第1回目の会議は、保護者の代表、学生の代表等を含めた委員により活発な議論が行われ、紫峰会時代より、学生の支援が400万円増額されました。

【スーツの割引サービス】

平成28年度から、学生、教職員の皆様の福利厚生を目的に、紳士服の大手4社と契約を結び、通常の割引価格から更に10%を割引いた価格でスーツ等をご購入いただけるようになりました。就職活動、成人式等にご活用ください。

また、今回の契約では、売上げの一部を事務手数料として、大学側に入る仕組みを作り、学生の皆様の支援等に支出する予定ですので、是非、ご利用いただけましたら幸いです。

収入の部		
勘定科目	金額	摘要
寄付金収入	89,794,858	(見込み)
	45,000,000	平成28年度紫峰会基金寄付金(見込み)
	44,794,858	紫峰会からの移行資産(見込み)
前期繰越収支差額	0	
収入合計(A)	89,794,858	
支出の部		
勘定科目	金額	摘要
職員人件費	4,100,800	非常勤職員給与(1名分)、非常勤法定福利費、雑給与
複写機借料・その他借料	754,848	印刷機、複合機、製本機リース料
複写機保守費・その他保守費	1,768,564	印刷機、複合機、製本機、大判プリンタ、ラミネーター、保守料
印刷製本費	6,000,000	「紫峰の風」関係印刷、紫峰会基金納入促進関係印刷、課外活動資料室関係印刷等
郵便料	3,948,000	「紫峰の風」等送付・メール便
奨学費	27,150,000	紫峰会基金奨助金
	3,550,000	課外教育行事奨助金(学園祭等)
	20,500,000	課外活動団体奨助金(一般・団体奨助金等)
	2,800,000	特別奨助金(海外遠征・後援事業等)
	100,000	組織助成金
	100,000	育成指導補助給付
	100,000	記念品特別支給
消耗品費	200,000	「紫峰の風」送付用消耗品、紫峰会基金事業消耗品等
雑費	400,000	紫峰会基金寄附金収納手数料等
予備費	677,788	
支出合計(B)	45,000,000	
収支差額(A-B)	44,794,858	
次期繰越収支差額	44,794,858	

茗溪会学生活動支援事業 助成金320万円を交付！

去る7月8日、学生活動支援事業選考委員会（委員長 西川潔副理事長）が開催され、24件の申請のうち「箱根駅伝復活プロジェクト」などを含む21件が採択されました（表参照）。これを受けて、同月21日、江田昌佑理事長から永田恭介学長へ寄附金の贈呈式が行われ、翌22日には、玉川信一副学長の臨席のもと、採択された団体への助成金交付式が行われました。参列した学生は、「大切に使用します」と、思いを新たにしていました。

茗溪会から筑波大学へは、毎年800万円近くを支援していますが、その4割程度を占めるのがこの学生活動支援事業です。今回は、申請団体が増え、支援総額で当初予算300万円を20万円ほど超えるものとなりましたが、徐々にこの事業が学内に浸透してきた結果であり、むしろ同窓会本来の活動として、ますますの充実が期待されています。また、残念ながら採択されなかった団体はいずれも工学系で、ある選考委員は、「社会や大学との関係という点での見せ方や申請書の書き方などに工夫がほしい」と解説していました。



2016年学生活動支援事業交付式

前回申請	団体等名称	対象事業	支援額 (千円)
1 新規	天文研究会	次世代光学式プラネタリウム投影機の開発	100
2 H27	オリエンテーリング部	第36回筑波大学オリエンテーリング大会	60
3 H27	ライフセービング部	茨城県鉦田市大竹海岸海水浴場監視救助業務の安全性の向上 (鉦田市役所から4,300,000)	200
4 H27	応援部 WINS	体育会所属団体の応援活動、スポーツデーなどの学内行事の広報活動、つくばマラソンなどつくば市内の行事の応援活動	250
5 H27	管弦楽団	筑波大学管弦楽団第80回定期演奏会	210
6 H24	吹奏楽団	筑波大学吹奏楽団第76回定期演奏会	130
7 H27	Realjam	ストリートダンスを通して地域に根差したイベント(まつりつくばなど)や学園祭やダンスイベントなどの出演、運営などの活動	140
8 H27	つくばほっとサークル	ロボットコンテスト参加に向けた活動およびメンバー間による技術交流	70
9 H27	学び場さくら塾	学び場さくら塾	70
10 H27	HSCaT	学内(教育・研究棟周辺および宿舍敷地内)に生息する猫の保護・管理及びTNR(避妊・去勢手術)活動	130
11 H27	筑波学生文芸賞運営委員会	筑波学生文芸賞運営委員会	50
12 新規	ジャズ楽団	筑波大学Neopolis BIGBAND 1st Recital	140
13 H27	平成28年度筑波大学学園祭実行委員会	第42回筑波大学学園祭「雙峰祭」	500
14 H27	つくば院生ネットワーク	リサーチユニット誕生プロジェクトを軸とした科学/異分野コミュニケーションの促進	110
15 H27	ふるさとつくば ゆいまつり 実行委員会	第6回ふるさとつくば ゆいまつり(協賛金等500,000)	270
16 H27	食と酒 東北祭り実行委員会	第3回食と酒 東北祭り(協賛金427,960)	110
17 新規	筑波大学スポーツ・デー学生委員会OBOG会	筑波大学スポーツ・デー40周年記念式典及び記念誌作成	40
18 新規	筑波大学陸上競技部駅伝チーム	筑波大学箱根駅伝復活プロジェクト	320
19 新規	香風寮学習ボランティア	児童養護施設における学習ボランティア活動	150
20 新規	つくばミュージックプロジェクト	筑波大学学園祭ライブ2016プロジェクト	50
21 新規	盆踊りプロジェクト-盆LIVE-	盆踊りプロジェクト-盆LIVE-(T-ACT承認企画)	100
		総 額	3,200

茗溪会学生活動支援事業(県人会特別枠) 随時受付中

茗溪会には、都道府県ごとに会員の組織があり活動しています。その地元出身の学生の活躍やUターンを願う思いを受けて、同郷を縁とするつながりを深める学生の活動を応援しています。現在、学生が大学内・外の同郷人と交流等を行う団体=県人会等の活動に対し、年度毎に1団体最大3万円の支援を行っています。

平成28年度茗溪会追悼のつどい

この1年間に亡くなられた茗溪会員を偲び、9月3日に追悼のつどいが開催されました。つどいでは、学長代理として臨席された稲垣敏之副学長が「(諸先輩は)近代教育の普及と学問の確立に向け新たな道を拓き、邁進してこられました。その新たなものに挑戦するという志は、今も引き継がれております」と挨拶されました。亡くなられた諸先輩に対し感謝の念をもってご冥福をお祈りします。

01

生命環境系教授

上條 隆志 さん

調査で訪れる伊豆諸島には様々な食材がありますが、どうも一般受けにくいものがあります。それがクサヤです。クサヤはムロアジなどを秘伝のクサヤ汁につけ、干物にして作られます。その味は良いのですが、独特?の匂いのため敬遠されてしまうことがあります。そこで、以下のようなクサヤ初心者への進め方を考案しました。その一、匂いを嗅がずにまず口に入れる。味は良いので、まずはおいしいということを脳に叩き込むのです。その二、手についた匂いを嗅がない。おいしさを覚えるまで、匂いは我慢した方が得策です。そして、慣れてしまえば、その匂いも癖になってしまうという次第です。写真は、伊豆諸島の青ヶ島での自然観察会の様子です。



NEXT

今回は、芸術系准教授の佐伯いく代さんです。「佐伯先生は、同じ東京農工大学農学部出身で、自然保護寄付講座の仕事と一緒にしています」

02

産学連携部産学連携企画課

太田 大輔 さん

英会話研修で一緒の高澤さんからバトン頂きました産学連携企画課の太田です。私の趣味についてご紹介しますが、英会話とは全く関係ございません(笑)。かれこれ4年ほど、市民農園をかりて半農生活をしており、週末はだいたい畑仕事です。その甲斐あっていつも新鮮で生産者の顔(この顔です)のわかるおいしい野菜を食べています。30歳を過ぎて始めた趣味ですが、自分の親世代の方々ともたくさんお友達になって、ありがたいお言葉を頂いたり、お酒をご一緒したりして楽しく菜園生活をしています。何かを作る、何かを育てるのは色んなことが見えてくるし、わかってくるのでおすすめです。

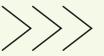


NEXT

今回は、グローバル・commons機構のCatherine Vivar Odaさんです。「学内の英会話研修の恩師です。彼女だけが僕をトム・クルーズに似てるって言ってくれます(笑) Thanks Mrs. Oda!」



ツクバでツナがるリレ→エッセイ



05

システム情報系准教授

掛谷 英紀 さん

エッセイ執筆と聞いて気軽に引き受けたが、テーマは家族や趣味と聞いて驚く。困った。暴力団まがいの受信料徴収をする団体を敵に回しているのだから家族の顔は晒せない。趣味も読書ぐらい。そういえば、今年は読んだ本に著者のサインをいただく機会が2度あった。これを自慢しちゃおう。1冊は青山繁晴さんの「ぼくらの祖国」。もう1冊は須田桃子さんの「捏造の科学者」。お二人とも



無理不尽な圧力を受けながら、信念を貫いて仕事をされているお方である。こうした方々から直々にサインをいただくと勇気が湧く。私も奮然と怯むことなく前に進んで行きたい。

NEXT

今回は、人文社会系准教授の海後宗男さんです。「NPO法人の活動で一緒させていただいております。筑波大には珍しい(?)ダンディーな先生です」

06

附属聴覚特別支援学校

山本 晃 さん

研究活動で長期休業中、よく沖縄へ行きます。研究の合間に沖縄の海を見たり、高台の首里城へ行ったり、沖縄の高速道路を走ると、心が晴れ晴れします。夜は每晚県庁前近くの食べ放題飲み放題のお店に行きます。食べ放題飲み放題でも3,000円以下のお店が多いというのは衝撃でした。私は「鬼さん」という店が気に入っています。



沖縄ファンの私は、東京などでもよく沖縄料理店に行きます。写真は、沖縄の小学校に研究にかかわる授業に行った様子です。沖縄の子どもたちも筑波の子どもたちと同じように、ステキな子どもたちでした。



NEXT

今回は、教育推進部教育推進課の篠原美智子さんです。「東京キャンパスでは沖縄出張、公開講座で大変お世話になりました。とても頼りになる、みんなから絶大な信頼を持たれる篠原さんです!」

03

病院総務部総務課

安保 由加 さん



私は、現在妊娠10ヶ月。数日後に予定日を控えています。リレーエッセイのお話をいただいた時は、『既に産まれているかも』と期待を膨らませていましたが、もう我が子ペースの生活が始まっているらしく、全然産まれる気配はありません。むしろ、近々の検診時の様子ではお腹の中でノビノビしてました(笑)。毎日お腹に向かって、『早く産まれておいで～皆待ってるよ』と話しかけてはいますが、思っている以上に私のお腹の中は居心地が良いようです。出産後は経験した事のない怒涛の生活となる様なので、残りのマタニティライフを満喫し、我が子の誕生を心待ちに過ごしたいと思います。



NEXT

今回は、医学医療系講師の大原玲奈さんです。
「主治医であり、3人のお子様ママ。素敵な笑顔に妊娠中もパワーを頂きました。先生のようなママが目標です」

04

数理物質系助教

山崎 信哉 さん



職場の先生のお誘いで、今年の春からボルダリングを始めました。東京オリンピックにも採用された、ロープなしで壁を登るスポーツです。市内のジムに週1~2回、2時間ほど通っています。様々な難易度のコースが設定されているので、少しずつレベルアップしていくのが楽しいです。また、腕や体幹も刺激されるので、楽しみながらトレーニングできるので一石二鳥といった感じです。私はあまり運動神経が良くないので、細く長く続けていけたらと思っています。見た目よりハードなスポーツなので怪我也有りますが、楽しくやっています！

NEXT

今回は、生命環境系アイソトープ環境動態研究センター准教授の古川純さんです。
「紹介する友達の少ない私を救ってくれる男義あふれる先生です。頼りになります」



**5000人を超す教職員がいる本学。
その中で生まれた人と人とのつながりを、8本のバトンが渡っていきます。**

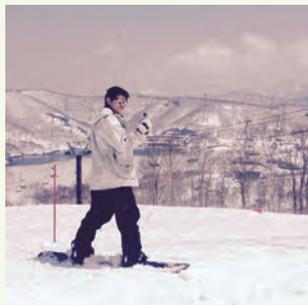


07

教育推進部教育機構支援課

志賀 辰哉 さん

1年ほど前からゴルフを始めました。張り切って購入したゴルフクラブを使いこなすにはまだまだ実力が伴っていませんが、前部署の上司はじめ多くの方々にご指導いただきながら、業務後や休日に練習しています。最近、ようやく上達の兆しが見えてきたような気がします。同期の友人を誘って打ちっ放しの練習場やミニコースに行くようになり、楽しみも広がってきましたが、なんといっても一番の楽しみは運動後のビールです。色々なことに手を伸ばしては飽きやすい性格ですが、長続きする趣味になると良いなと思っています。



NEXT

今回は、学術情報部アカデミックサポート課の塩澤美咲さんです。
「スノーボードやバレーボール等、色々なところでござらせていただいている、非常に活発な方です」

08

医学医療エリア支援室

園城寺 仁美 さん

筑波山の麓にあるハシバミという焼き菓子のお店を紹介します。定番のクッキーやマフィンもちろんおいしいですが、キャロットケーキやいとこパイ(かぼちゃと小豆)、ズッキーニケーキなどの季節の素材を使ったものがお薦めです。家庭的で素朴な味わいや、飾らないお店の雰囲気…すっかりファンになってしまいました。祖父母の家の近くにあり、小さい頃に近くを散歩したことを思い出しながら、今日は何があるかなとお店に向かうのも楽しい時間です。大学の近くだと中央公園で開催される「つくいち」で販売していることもあるので、気になる方はぜひ試してみてくださいね。



NEXT

今回は、体育系教授の菊幸一さんです。
「東京キャンパスでお世話になりました。豪快な笑顔で気さくに話しかけてくださり、いつも元気づけられました」

※所属・職名は2016年6月現在

Media Appearances

本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(7月~9月)

新聞記事一覧

	記事内容	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	寺田康彦准教授らは、コンパクトMRIを開発し、樹液の流れの可視化に世界で初めて成功。非破壊計測できる利点を活かし樹木の通水阻害や果実のなり具合などの研究に活用できると期待	寺田康彦准教授(数理解物系)	東京(7.2)
2	▽自転車:全日本学生選手権で、本学梶原悠未さんは女子500m TT、3000m個人追い抜き、1万6000mポイントレースの3種目優勝	梶原悠未(体専1年)	茨城(7.4)
3	7月13日に本学大会会館にて、リオ五輪・パラリンピックに出場する筑波大学関係者の壮行会が盛大に行われた	永田恭介学長 永瀬貴規(OB 旭化成) シャーフセイン・シャール(OB パキスタン代表) 瀬立モニカ(体専1年)	毎日(7.14) 東京(7.16)
4	第57回国際数学五輪で日本代表として参加した本学附属駒場高の青木孔さんと、第47回国際物理五輪で日本代表として参加した同校の福沢昂汰さんは、それぞれ金メダルを獲得した	青木孔(附属駒場高校3年) 福沢昂汰(附属駒場高校3年)	朝日・茨城(7.16) 朝日(7.18)
5	国内の陽子線治療施設で最も多く小児がん患者を受け入れている本学附属病院は地元不動産施設と連携して病院近郊に低料金で家具・家電付アパートを提供し、遠方の患者家族を支援する	附属病院	東京(7.18)
6	本学芸術系社会貢献推進室は、7月16、17日の2日にわたって「夏休みアート・デーキャンプ2016」をつくり市などと共同で開催した		常陽(7.20)
7	本学エンパワーメント情報学プログラム5年の村田耕一さんが、学生向けITコンテスト「イマジナカップ」の世界大会で日本代表チームとして出場することを受けて、壮行会が開催された	伊藤眞副学長 村田耕一(グローバル教育院EMP5年) 江國翔太(グローバル教育院EMP5年) 朝倉靖成(グローバル教育院EMP2年) 上原皓(シス情知機博士前期2年)	常陽(7.20)
8	量子科学技術研究開発機構らと本学山田洋一講師の研究チームはグラフィン内部のスピンの向きを磁性酸化物によって制御できることを世界で初めて発見した	山田洋一講師(数理解物系)	日刊工業(7.26)
9	リオ五輪に挑む選手名鑑(7月30日現在) リオ五輪日本代表派遣選手が一覧掲載され、本学に関係する10名の選手が紹介された	山下航平(体専4年) 金子雅紀(人間総合体育博士前期2年) 棚村克行(OB ブルボンKZ) 志水祐介(OB ブルボンKZ) 安田賢也(OB ブルボンKZ) 永瀬貴規(OB 旭化成) 衛藤昂司(OB 味の素ゼネラルフーズ) 彦坂匡克(OB トヨタ自動車) 福岡堅樹(OB パナソニック) 与那嶺恵理(OB Hagens Berman Superming)	東京(8.1) 毎日(8.3)
10	本学技術職員による科学ワークショップ「夏休み自由研究お助け隊2016」(実行委員長は齋藤一弥教授)を開催し、本学の実験設備を活用して中学生がテーマごとに実験や観察を行った	齋藤一弥教授(数理解物系)	常陽(8.1)
11	本学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター主催による「夏季リケジョサイエンス合宿」を女子中高生を対象に実施。2泊3日の合宿には女子中高生120名と保護者、教員などが参加した	三木ひろみ准教授 綾部早穂教授(心理系)	常陽(8.5)
12	リオ五輪柔道男子で最も層が厚いとされる81kg級で永瀬貴規さんは、銅メダルを獲得	永瀬貴規(OB 旭化成)	朝日・毎日・読売・日経・東京(8.10)夕 朝日・毎日・読売・産経・茨城・東京(8.11) 読売・産経・東京(8.14) 読売・東京(8.16)
13	本学医学医療系の大城幸雄講師らによる3D-CGバーチャル手術シミュレーションユニットはつくばエキスポセンターで「3Dバーチャルシミュレーションからロボット手術への応用まで」と題し、研究成果の展示やちびっこ外科手術体験を行った	大城幸雄講師(医学医療系)	常陽(8.11)
14	生命環境系の高谷直樹教授らと北陸先端科学技術大学院大学の共同研究で、遺伝子組換えした大腸菌を用いてブドウ糖からシナモン系分子を合成、重合し、世界最高強度の透明樹脂の開発に成功した。今後は企業と連携して事業化をめざす	高谷直樹教授(生命環境系)	日経産業(8.12)
15	本学生命環境系、小林達彦教授の研究グループは、ゴマ由来の生体活性物質であるセサミンを代謝する微生物を発見し、酸化活性がより強いセサミンモノカテコールとセサミンジカテコールへと変換する酵素SesAを世界で初めて明らかにした	小林達彦教授(生命環境系)	科学(8.12)
16	数理解物系の長崎幸夫教授らは、がん細胞に多い物質と反応して抗がん成分を出す微小なカプセルの開発に成功し、5年以内に人を対象とした臨床研究を始める計画	長崎幸夫教授(数理解物系)	日経(8.13)夕
17	第28回国際情報五輪で日本代表として参加した本学附属駒場高の増田隆宏さんは銀メダルを獲得。第13回国際地理五輪で日本代表として参加した同校の佐藤剛さんは銅メダルを獲得した	増田隆宏(附属駒場高校3年) 佐藤剛(附属駒場高校3年)	朝日・読売・茨城(8.20) 読売・東京(8.23)
18	医学医療系 矢作直也准教授、武内謙憲助教らの研究グループは、食事状況に応じて肝臓における中性脂肪合成がON/OFFされる仕組みを解明。たんぱく質「KLF15」が脂肪の合成に関与していることがわかった	矢作直也准教授(医学医療系) 武内謙憲助教(医学医療系)	日刊工業(8.22)
19	本学とお茶の水女子大学は9月1日に、教育研究の大学間連携協定を締結した。両大学の資源・強みを活かし、人材育成および附属学校教育を含めた教育連携への発展を目指す		日刊工業(9.2) 毎日・読売(9.8)
20	▽陸上:陸上日本学生対校選手権 女子ハンマー投げで本学勝山眸美選手が62m70の大会新記録	勝山眸美(体専4年)	朝日(9.4)
21	ナノテク分野の優れた業績をあげた研究者に贈られる「江崎玲於奈賞」は東北大の大野英男教授が選ばれた。県内研究者を対象としたつくば奨励賞若手研究者部門で国際統合睡眠医学研究機構の林悠准教授が選ばれた	江崎玲於奈名誉教授(元学長) 林悠准教授(国際統合睡眠医学研究機構)	読売・日経・産経・東京・常陽・日刊工業・日経産業(9.6) 朝日(9.8)
22	本学附属病院の新井哲明教授らは、常総市の水害にあった認知症の高齢者を中心に訪問面談を行い、専門医療の受診や介護サービスをつなげる支援活動を続けている	新井哲明教授(医学医療系) 附属病院	茨城(9.11)
23	全日本柔道連盟は2020年東京五輪に向けた日本代表の新たな強化体制を決定し、女子新監督に本学柔道部総監督の増地克之准教授が就任することを発表した	増地克之准教授(体育系)	朝日(9.15)
24	▽水泳(飛び込み):第92回日本選手権女子1メートル板飛び込みで本学の榎本遼香さんが優勝、シンクロ高飛び込み男子は本学の久保保樹さんのペアが優勝した	榎本遼香(体専2年) 久保保樹(体専2年)	朝日(9.20)
25	本学主催で「つくばグローバルサイエンスウィーク」を9月17-19日に開催。地球規模の課題解決のため研究者が取るべき姿勢を示した「TSUKUBA宣言2016」を採択した		常陽(9.20)

テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	リオ・パラリンピックに帯同医師として参加した羽田康司准教授のパラリンピックにかける想いや意気込みなどを紹介	羽田康司准教授(医学医療系)	NHK総合 あなたが主役50ボイス ~リオ・パラリンピックボイス~(9.3)
2	リオ・パラリンピックから正式競技となったパラカヌーの瀬立モニカ選手の挑戦(リオ・オリンピック編)	瀬立モニカ(体専1年)	TOKYO MX カウントダウンTOKYO(9.19)

Event Calendar

10 October

- 1日 (土) 開学記念日
- 3日 (月) 秋学期授業開始
第2次選考「AC/国際科学オリンピック/国際バカロレア」
(~17日)
- 4日 (火) Cosmos Café (11, 18, 25日)
- 11日 (火) 附属図書館特別展「歴史家 二宮宏之の書棚」(~11/13)
体育・芸術図書館ラウンジリニューアル オープニングセレモニー
GC Chat in Japanese (14, 18, 21, 25, 28日)
- 12日 (水) TOEFL 説明会
- 13日 (木) GC Chat in English (17, 20, 24, 27, 31日)
- 16日 (日) 山本明・柳沢正史 紫綬褒章受章記念講演会(つくば国際会議場)
City Chat Café (サテライトオフィス)
- 17日 (月) GC海外体験写真展(~11/6)
- 21日 (金) 合格発表「AC/国際科学オリンピック/国際バカロレア」
- 26日 (水) ドイツデー

11 November

- 1日 (火) GC Chat in Japanese (8, 11, 15, 18, 22, 25日)
Cosmos Café (8, 15, 22日)
- 4日 (金) 学園祭(~6日)
- 6日 (日) ホームカミングデー
- 10日 (木) GC Chat in English (14, 17, 21, 24, 28日)
- 11日 (金) TOEFL 説明会
海外ボランティア説明会
- 12日 (土) 秋季スポーツ・デー(~13日)
つくば科学フェスティバル(つくばカピオ)(~13日)
- 16日 (水) MENA WEEK(~22日)
- 29日 (火) 入学試験「推薦/帰国生徒(体育・芸術)」(~30日)

12 December

- 1日 (木) GC Chat in English (5, 8, 12日)
- 2日 (金) GC Chat in Japanese (6, 13日)
- 5日 (月) 中国WEEK(~11日)
- 6日 (火) Cosmos Café (13日)
- 7日 (水) Cosmos Chat (14日)
- 12日 (月) 合格発表「推薦/帰国生徒(体育・芸術)」
第5回IIISシンポジウム
AFRICA WEEK(~18日)
海外ボランティア説明会
- 16日 (金) 秋ABモジュール期末試験
- 18日 (日) City Chat Café (LALAガーデンつくば)
- 23日 (金) 冬季休業(~1/9)



TSUKUBA COMMUNICATIONS (筑波大学広報誌) VOL.33
平成28年10月発行 編集・発行：筑波大学広報室
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
電話：029-853-2063 E-mail：kohositu@un.tsukuba.ac.jp
URL：http://www.tsukuba.ac.jp/

©2016筑波大学(本紙記事の無断転載を禁じます)